

平成 22 年 5 月 21 日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2008～2009
 課題番号：20720058
 研究課題名（和文） 「報知新聞」にみる野村胡堂の文学観—報知新聞記者から『銭形平次捕物控』の作者へ—
 研究課題名（英文） A Study of Nomura Kodo's literary policy: From the point of view on the Arts and Entertainment section of the Hochi-Press
 研究代表者
 谷口 幸代 (TANIGUCHI SACHIYO)
 名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准教授
 研究者番号：50326162

研究成果の概要（和文）：大正期の野村胡堂は、『報知新聞』文芸欄で、記事の執筆、新聞小説の企画などの編集作業、自らが連載読物を書く創作、と多彩に活動した。胡堂は、記者や学芸部長の活動を通して把握した文壇の動向と読者の好みに基づき、新聞小説において、新しい書き手の充実、作品の質の向上、既成の枠組みに囚われない新しい分野の開拓をめざした。大正期に始まった輪転機印刷の普及による激しい発行部数競争を背景に、胡堂は純粋芸術とは別の新聞小説というジャンルを切り開いた。このことは『報知新聞』に森鷗外や芥川龍之介の作品が掲載されなかった理由を考える手掛かりとなり得る。

研究成果の概要（英文）：During the Taisho Era, Nomura Kodo held wide variety of jobs in the Hochi-Press, writing articles, and planning and writing serial stories. He recognized the trend of the literary world and aimed for expansion of writers, improvement in the quality of works, and breaking new ground. He did not accommodate the tastes of the readers, nor did he float along with the flow the times. Backed by tightening competition of the newspaper circulation based on the spread of rotary printing machines, Kodo explored and expanded the possibility of the serial story genre in the Hochi-Press. The clue as to why the novels of Mori Ogai and Akutagawa Runosuke did not appear in Hochi-Press lie in Kodo's literary policy.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,100,000	330,000	1,430,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：野村胡堂、報知新聞、新聞小説、メディア、文学観

1. 研究開始当初の背景

野村胡堂研究は尾崎秀樹の大衆文学研究の中に取り上げられるところから開始されたが、近年、太田愛人『野村胡堂・あらえびすとその時代』(教文館、2003)、藤倉四郎『野村胡堂・あらえびすの一生』(青蛙房、2005)が刊行された。ともに胡堂と親交のあった関係者が豊富な資料を駆使して小説家野村胡堂と音楽評論家あらえびすの両面に迫った労作であるが、作品研究はもとより胡堂をめぐる個別の問題の探求はこれからという状態にあった。本研究が扱った「報知新聞」との関連についても、文芸欄の充実には胡堂の手腕が関与しているとはいわれていたが、具体的な検討は行われていなかった。

また、出版社や新聞社勤務の体験をもつ作家は少なくないが、従来は作家として立つ前の雌伏の時代としてとらえられがちだった。十分な研究が行われているといえるのは、作家としての地位を確立してから朝日と契約を結んだ漱石のケースぐらいであった。さらには「報知新聞」自体の研究が進んでいないのが現状であった。

2. 研究の目的

(1) 明治45年に報知社に入った胡堂は、小説家として活躍し始めてからも同社に在籍し、同新聞の記事の執筆、新聞小説の企画などの編集作業、自らが新聞小説を書く創作など多様な活動を行っている。本研究は報知記者時代の胡堂の実像を明らかにし、記者としての体験が作家胡堂の誕生と展開にいかに関与したのかを考察することを第一の目的とした。

(2) 第二の目的は、「報知新聞」における胡堂の位置や役割を解明することである。「報知新聞」の興隆期から衰退期へというプロセ

スの中で、社会部長や学芸部長を歴任した胡堂が果たした役割を明らかにすることをめざした。

(3) 第三の目的は、胡堂が企画した新聞小説の特色を明らかにすることである。胡堂が「報知新聞」の読者の好みや新聞小説をどのように考えていたのか、文学における通俗性や大衆性をどうとらえていたのか、これらの観点から新聞小説をめぐる胡堂の文学観を明らかにすることをめざした。

3. 研究の方法

(1) 国会図書館所蔵のマイクロフィルム等や野村胡堂・あらえびす記念館のお世話になり、大正期の新聞小説のリストアップを中心に「報知新聞」文芸欄の紙面調査を行った。胡堂が入社する前、入社後、学芸部長就任以後、各時期の動向と学芸部長就任後の新傾向を確かめ、胡堂が採用した書き手のバリエーションや傾向とその意義を分析した。

(2) 胡堂が起用した新聞小説の書き手たちの回想や発言などを収集した。それと共にそれらの作家に関する研究成果を収集し、胡堂が企画した新聞小説作品が彼らの文業の中での評価を調査した。それらの作業から著作者の側から見た記者としての胡堂像、並びに個別の作家における報知新聞小説の意味を探った。

4. 研究成果

(1) 松林伯知の「水戸黄門記」から派生した新企画の連載読物「晴山茂吉善根旅行」を発掘した。この企画は胡堂と同僚が特派員をつとめているが、従来の胡堂研究では無視されてきた。新聞の連載読物に関する新進記者時代の胡堂の志向を明らかにした。すなわち、講談読物に慣れた読者を想定し、虚実入り乱

れた滑稽な語り口が意識されている。また筆者の正体を推理させる謎解きの面白さを切りばめ、現地取材と現地通信によるドキュメンタリーの要素を融合させた読者参加型の実験性に富む新企画である。後に同僚の矢田挿雲の名作「江戸から東京へ」を生み出す原点はこうした実験の積み重ねにあったことを確かめた。

(2) 学芸部長として胡堂が起用した作家の傾向を他紙の動向を視野に入れて検討し、胡堂が新聞小説から「報知新聞」文芸欄の改革を試みたこととその意義が明らかになった。胡堂入社以前の「報知新聞」の文芸欄では、掲載小説の書き手は柳川春葉を中心に渡辺霞亭、小杉天外、小栗風葉ら明治期に地位を確立した作家であり、彼らは「大阪毎日新聞」「大阪朝日新聞」等他紙に代表作を発表していることから、新鮮味に欠けた顔ぶれであったことをまず確かめた。そういう状況を一新したのが胡堂の起用であったことが明らかになった。胡堂が起用したのは、宇野浩二、室生犀星ら新進作家の抜擢から菊池寛ら著名な作家の起用まで多彩な顔ぶれである。そのねらいは、書き手の充実、新聞小説の質の向上、新しい分野の開拓に置かれていたと考えられる。

(3) 胡堂自身が書き手として、「二万年前」と「大東京」を執筆し、新しい連載小説に挑戦していたことを考察した。「二万年前」は当時、通俗的読み物と見られていた空想的科学小説というジャンルを敢えて選んで、科学、哲学、小説を超えた「科学小説」が志向されている。また「大東京」では、物語、案内記、繁昌記の全ての面白さを併せ持ちながら、そのどれでもない新しい連載小説がめざされた。

(4) 以上から、胡堂が文壇の趨勢や読者の好みを把握し、講談からの脱皮をはかり、従

来の連載読物の枠を超えた新しい新聞小説の創出をめざしていたとの結論を得た。これは胡堂が時代の要求に応え、純粹芸術とは別の新聞ならではの文学というジャンルを切り開いたことを意味し、彼の視点は現代文学の展開を予見するものであった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

谷口幸代、野村胡堂の誕生—『報知新聞』文芸欄を視座として—、出版研究、日本出版学会誌、査読有、40号、2010、125～139頁

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷口 幸代 (TANIGUCHI SACHIYO)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准教授

研究者番号：50326162

(2)研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3)連携研究者

なし ()

研究者番号：